



プレスリリース
報道関係各位

2024年12月9日
株式会社 Box Japan

Box Japan、 「企業における生成 AI の活用に関する意識調査」を実施 今後の生成 AI 導入の鍵は「セキュリティの担保」

導入済み企業の 94.0%が今後も生成 AI をさらに活用していきたいと回答する一方、
95%の運用担当者が生成 AI の活用に不安を抱えていることが判明

インテリジェントコンテンツ管理（ICM）プラットフォームのリーディングカンパニーである Box, Inc.の日本法人である株式会社 Box Japan（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：古市 克典、以下 Box Japan）はこの度、生成 AI サービスを導入済み、あるいは導入を検討している企業の利用者および管理者を対象に実施した、「企業における生成 AI の活用に関する意識調査」（以下、本調査）の結果を発表しました。

【調査概要】

- ・調査方法：インターネット調査
- ・対象エリア：全国
- ・調査実施日：2024年10月4日（金）～7日（月）
- ・サンプル数：1,000名（20代から60代の男女）
- ・調査対象：生成 AI 導入企業の利用者（400名）※1
生成 AI 導入企業の導入関与者または運用管理者（200名）※2
生成 AI 導入検討企業の導入関与者（400名）※3



- ※1 すでに生成 AI を導入している企業に勤め、利用している
※2 すでに導入している企業に勤めており、生成 AI の導入に関与した、または導入後に運用を管理している
※3 まだ導入していないが現在導入を検討している、または導入が決まっている企業に勤めており、導入に関与している

■ 本調査の主な調査結果

導入関与者・運用担当者は、利用者より生成 AI の利用に不安を感じている

生成 AI 活用促進の鍵は「ユーザーの IT リテラシー」

- ・95.0%の導入関与者・運用担当者が生成 AI 活用に対する不安を感じていることが明らかに
利用者では 74.0%に留まるなど、回答結果に大きな開き
- ・生成 AI を導入する上で重視する点はセキュリティが 1 位（45.8%）
- ・生成 AI 導入検討時の予算は月額 2,000 円以上 3,000 円未満が 21.0%と最多
実際の導入予算は月額 3,000 円以上 4,000 円未満が 20.5%と費用が高くなる傾向に
- ・導入企業では 94.0%が今後も生成 AI を活用していきたいと回答
さらに生成 AI の活用を進めるには、「ユーザーの IT リテラシー」が鍵
- ・生成 AI 導入後の社内の反応は、72.5%の企業がポジティブだったと回答

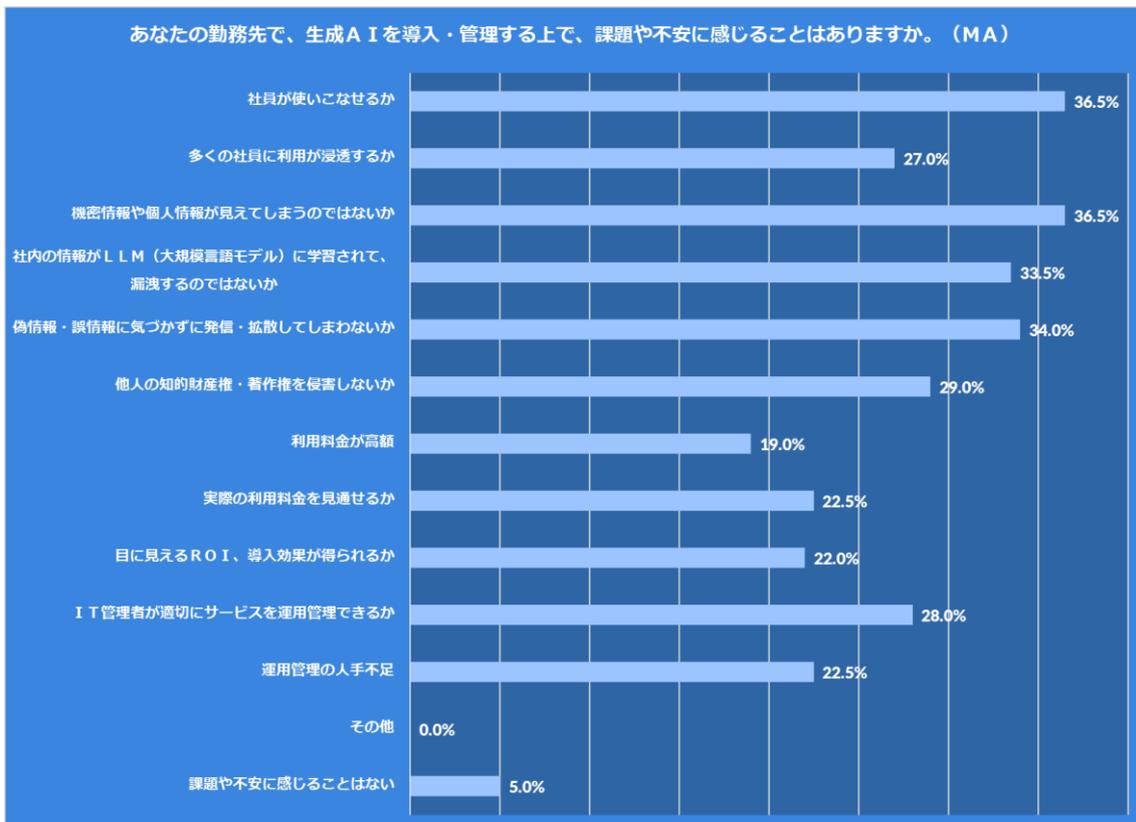


調査に関する詳細については[こちら](#)をご参照ください。

■ 調査結果の詳細

生成 AI に何らかの課題や不安を感じる運用担当者は 95.0%、利用者では 74.0%と、生成 AI への意識に大きな開き

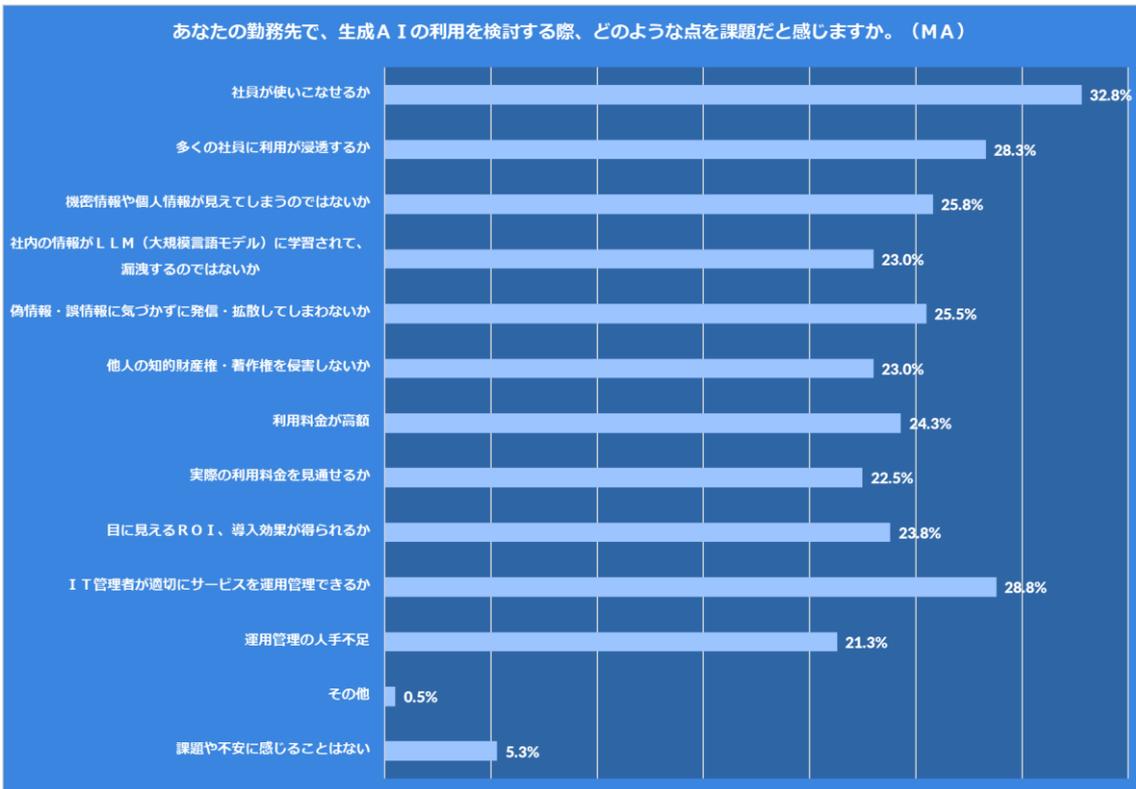
今回の調査で、生成 AI を利用して何らかの課題や不安を感じている生成 AI 導入企業の導入関与者・運用担当者の割合は 95.0%であることがわかりました。具体的な課題や不安について、最も多かった回答は、「社員が使いこなせるか」、「機密情報や個人情報が見えてしまうのではないか」がそれぞれ 36.5%を占め、AI サービスの活用によるリスクと社内浸透の両面で課題や不安を抱えていることがわかりました。



n = 200

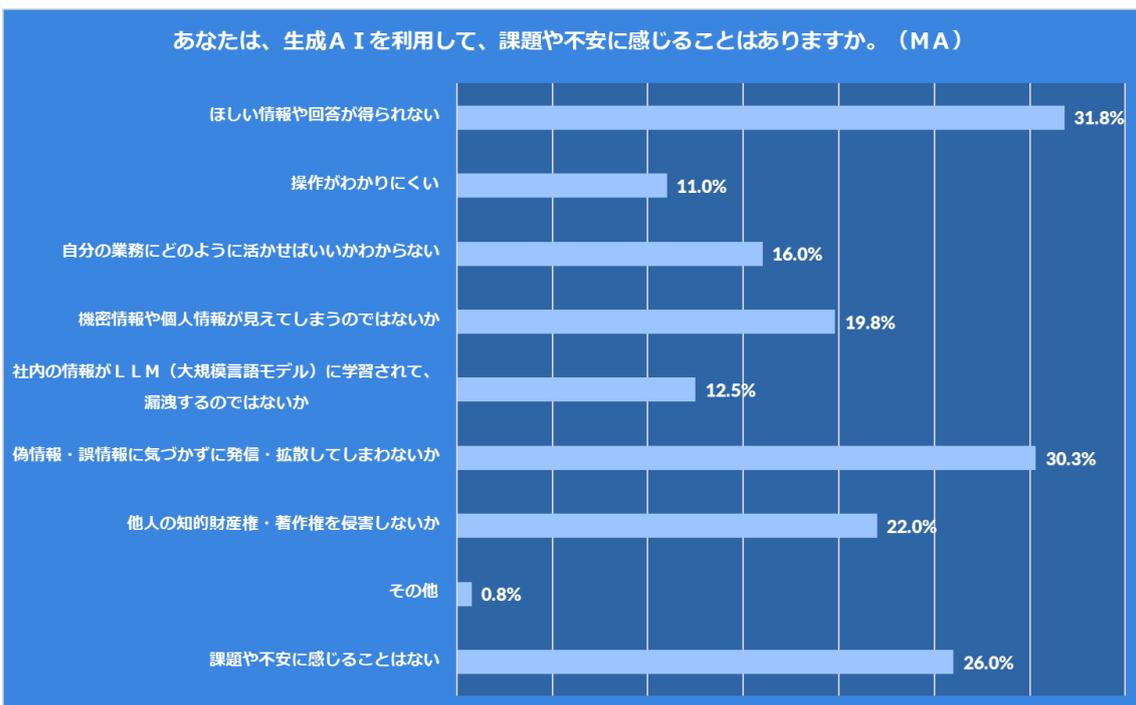
複数回答

これから生成 AI を導入する企業においても、94.7%の導入関与者が何らかの課題や不安を抱えており、導入済み企業と同じく、「社員が使いこなせるか」が 32.8%と最も多く課題となりました。



n = 400
複数回答

一方で、利用者では、生成AI活用に関して課題や不安を抱えていると回答した人の割合は74.0%でした。先述の「機密情報や個人情報が覚えてしまうのではないかと」は19.8%に留まり、導入関与者・運用担当者の抱える課題と大きな差が出る結果となりました。また、利用者が回答した最も多い課題点は「欲しい情報や回答が得られない」が31.8%でした。



n = 400
複数回答



生成 AI を導入済みの企業と検討中の企業では、製品を選択する上で重視するポイントにギャップがある

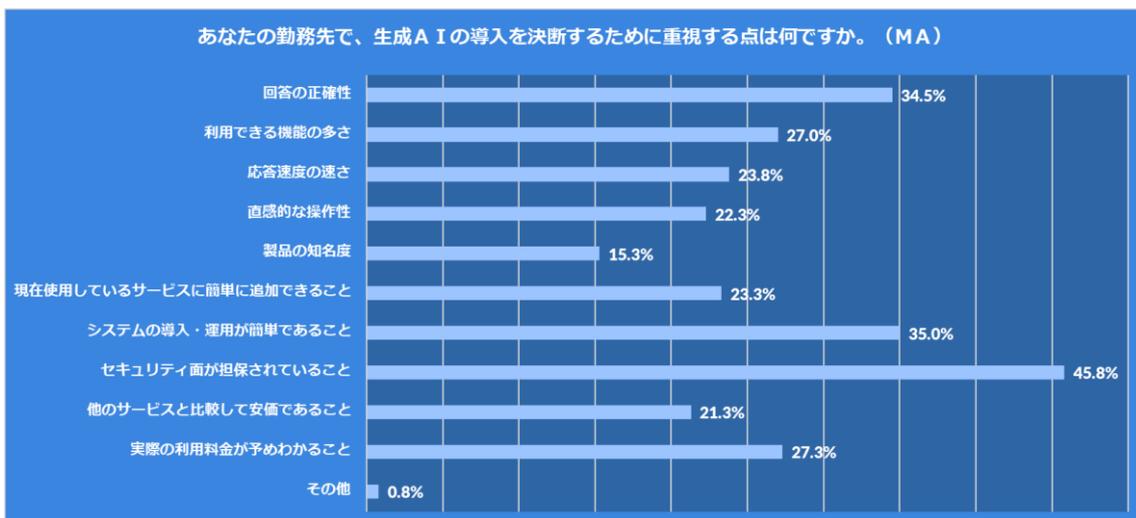
導入済み企業は機能面を重要視、導入検討企業では約半数がセキュリティを重要視

生成 AI を導入済みの企業の導入関与者・運用担当者に、現在利用している生成 AI をどのような理由で選択したか尋ねたところ、「利用できる機能が多いから」が 40.0%、「現在使用しているサービスに簡単に追加できるから」が 35.5%となりました。



n = 200
複数回答

一方で、生成 AI の導入を検討している企業の導入関与者に対して、生成 AI の導入を決断する際に重視する点を尋ねると、45.8%が「セキュリティ面が担保されていること」と回答しており、セキュリティへの懸念が最も多く、「利用できる機能の多さ」(27.0%)や「現在使用しているシステムに簡単に追加できること」(23.3%)と大きく差を開く結果となりました。このことから、今後企業が生成 AI の導入を検討する際には、セキュリティ面が最も重要な要素とされていることがわかります。

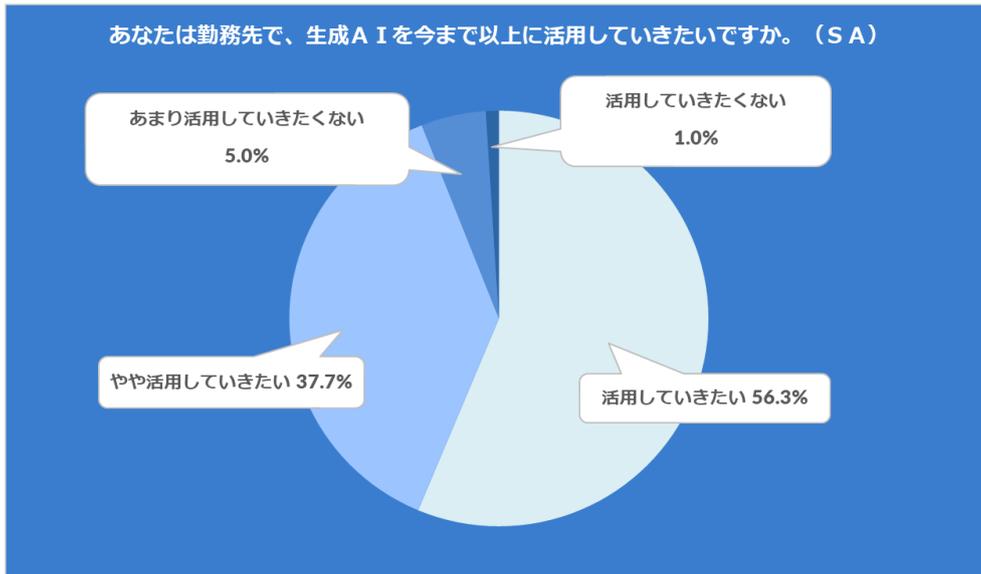


n = 400
複数回答

94.0%が今後も生成 AI を活用していきたいと回答

さらに生成 AI の活用を進めるには、「ユーザーの IT リテラシー」が鍵

生成 AI を導入している企業の利用者、および導入関与者・運用担当者に対して、今後の生成 AI の活用意向を尋ねたところ、94.0%の回答者に活用意向がある（「活用していきたい」56.3%、「やや活用していきたい」37.7%の合計）ことが分かりました。



n = 600
単一回答

また、前問で「活用していきたい」、「やや活用していきたい」と回答した方へ、今後の生成 AI の活用に必要な要素を尋ねたところ、利用者の 53.7%が「高い回答精度」と回答したのに対し、導入関与者・運用担当者では「回答精度の向上」は 34.4%に留まり、「ユーザーの IT リテラシーの向上」が 37.6%、次いで「生成 AI で利用するファイルの整理」が 36.0%と最も多い結果となりました。



n = 378
複数回答

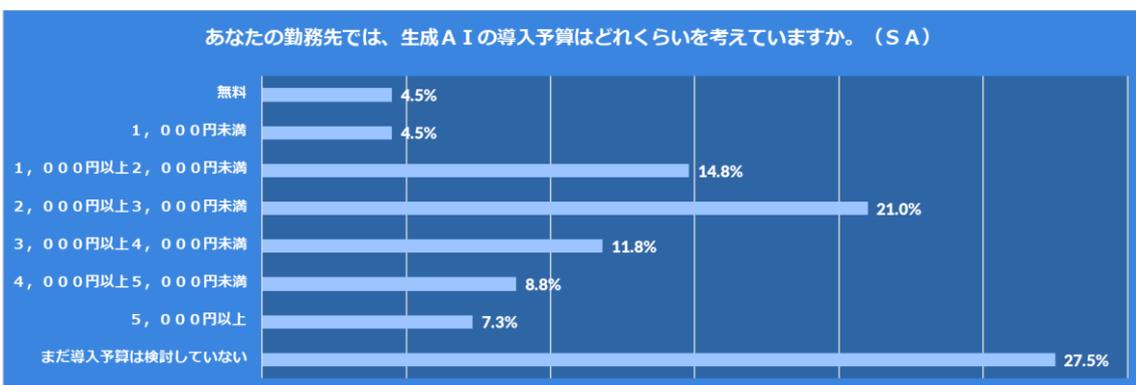


n = 186
複数回答

導入関与者・運用担当者は、生成AIの能力を引き出すために、IT環境の整備や利用者のITリテラシー向上など、利用者に起因する事柄を重要視している一方で、利用者はAIの回答の精度に目を向けていることが分かります。AIを活用するためには、利用者の使いやすさや満足度などのサービス面はもちろん、利用者のリテラシーの向上が今後の生成AI活用促進の鍵となることが考えられます。

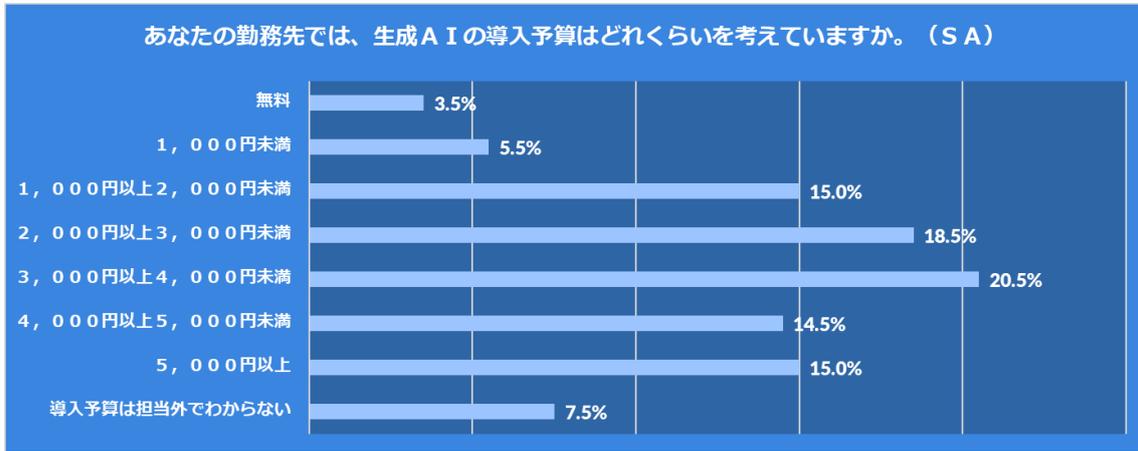
**生成AIの導入検討における予算は21.0%の企業が月額2,000円以上3,000円未満と回答
実際の導入金額は、月額3,000円以上4,000円未満が20.5%と最多**

生成AIの導入を検討している企業の導入関与者に予算を尋ねたところ、21.0%の企業が月額2,000円以上3,000円未満と回答しました。



n = 400
単一回答

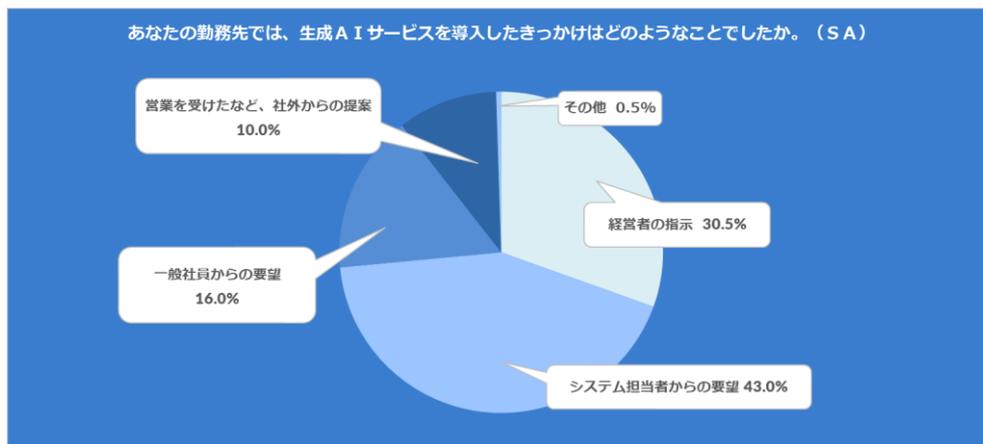
一方で、生成 AI を導入している企業の導入関与者・運用担当者には、生成 AI の導入に費やした金額を尋ねたところ、月額 3,000 円以上 4,000 円以上が 20.5%と最も多い回答結果となり、導入検討時の予算と比べ、実際に導入した際の金額が高い傾向にあることが分かりました。



n = 200
単一回答

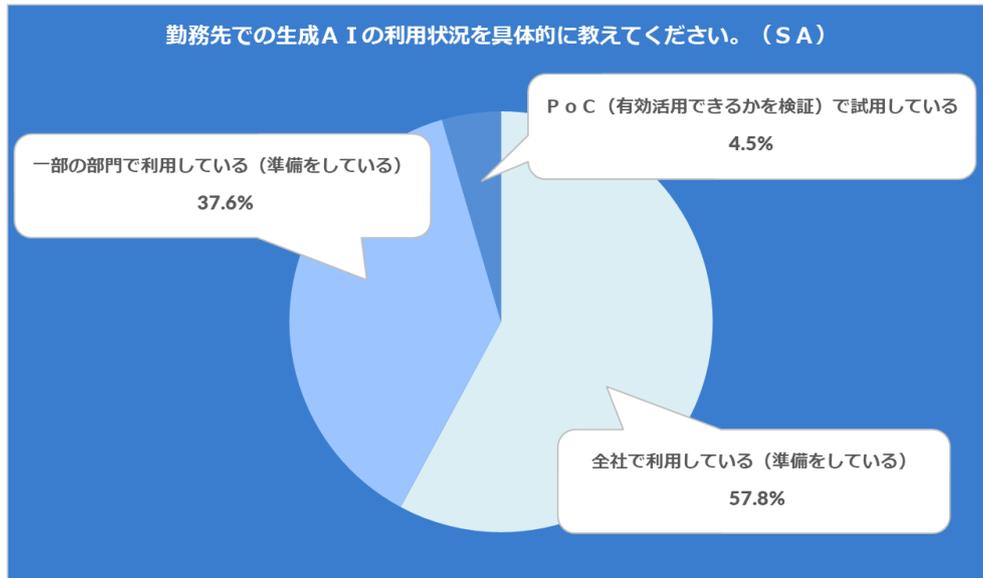
全社的に生成 AI の導入を進める企業が多く、導入後の社内の反応もポジティブ

生成 AI を導入している企業の導入関与者・運用担当者に対して、生成 AI サービスを導入したきっかけを尋ねたところ、最も多かった回答は「システム担当者からの要望」が 43.0%、次いで「経営者の指示」が 30.5%、「一般社員からの要望」が 16.0%となり、生成 AI サービスの導入については、社内全体から要望があることが分かりました。



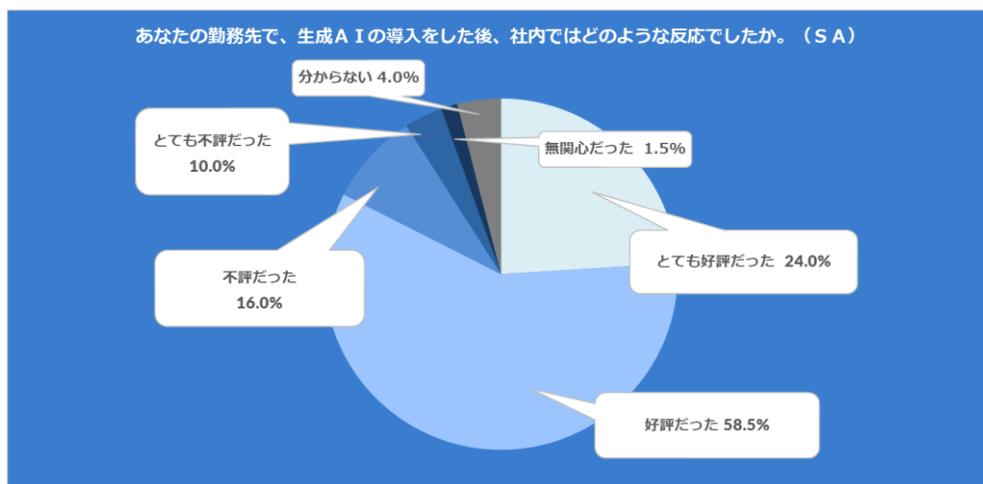
n = 200
単一回答

また、生成 AI を導入して業務で利用している、または導入が決定し利用する準備をしている企業の利用者もしくは運用管理者に、生成 AI の利用状況について尋ねたところ、「全社で利用している（準備をしている）」が 57.8%と最も多く、一部の部門に限らず全社的に AI を導入している企業が多いことが明らかになりました。



n = 752
単一回答

生成 AI 導入後の社内の反応について、導入関係者・運用担当者に尋ねたところ、ポジティブな反応が 72.5%（「とても好評だった」24.0%、「好評だった」58.5%の合計）を占めており、実際に生成 AI の活用に前向きな声が多いことが分かりました。



n = 200
単一回答



■ 調査結果を受けて～より高精度な回答が求められる生成 AI～

<解説者>

株式会社 Box Japan
プロダクトマーケティング部
エバンジェリスト
浅見 顕祐



容易に使いこなすことができ、正確な情報を精度高く返してくれる -- そんな生成 AI に大きな期待が寄せられていることがアンケートの結果から読み取れます。一方で多くの方が、機密情報の過剰共有（オーバーシェアリング）をはじめとするセキュリティ面でのリスクを感じており、「精度」という言葉には「正しいアクセス権限に基づく」という意味も含まれていることがわかります。

また、実際の利用料金が想定予算よりも上回る傾向が見られることから、生成 AI サービスを選定する際には自社の要件と利用料金とのバランスの見極めが課題となることが予想されます。

そして、生成 AI 活用には「IT リテラシー」や「プロンプトスキル」が必要という回答が多いことから、人間の仕事を省力化するための AI 活用のはずが、AI を使うことで逆に覚えなければならない事が増えてしまっているケースも少なくないことが想像できます。

生成 AI の高い精度を実現するためには、正しい情報を読ませるために AI の情報源となるコンテンツの管理や、AI を実行する前のプロンプトへの情報付加（RAG）などの対応が非常に重要です。

Box について

インテリジェントコンテンツ管理（ICM）プラットフォームのリーディングカンパニーである Box (NYSE: BOX)は、企業のコラボレーション促進や、コンテンツのライフサイクル全体の管理、重要なコンテンツの保護、そしてエンタープライズ AI によるビジネスワークフローの変革を実現することを目指しています。2005年に米国で設立され、アストラゼネカ、JLL、モルガン・スタンレーなどを含む大手グローバル企業や日本では約 19,000 社および日経 225 の 76%の企業の業務効率化を支援しています。

Box は、カリフォルニア州レッドウッドシティーに本社を置き、米国、ヨーロッパ、アジアに拠点を持っています。また、Box.org では、非営利団体のミッション実現を支援するために多様な活動を行っています。株式会社 Box Japan は 2013 年に設立された日本法人です。日本国内の情報については、下記のサイト「Box Square」で随時更新しています。

<https://www.boxsquare.jp/>

報道機関からのお問い合わせ先

株式会社 Box Japan

広報担当：佐保

E-mail: msaho@box.com